

北九州地区小児科医会会報

講演会・カンファランスの等のご案内

北九州地区小児科医会例会のご案内

第577回北九州地区小児科医会例会（WEB開催）

日時：2022年7月21日（木）18:55～20:15

一般講演：小児科診療所でのリンゴック導入経験

演者：いづかこども診療所 院長 牟田 広美 先生

特別講演：小児アトピー性皮膚炎の最新治療

～外用療法から全身療法まで

演者：福岡市立こども病院 アレルギー・呼吸器科

科長 手塚 純一郎 先生

ウェビナー登録先：

https://abbvie.zoom.us/webinar/register/WN_fmYwdu

C7QICr8ds-7bfZRw



※8月は休会です

産業医科大学セミナー等のご案内

現地とWeb配信のハイブリッドで開催いたします。

Webでの参加をご希望の先生は、

j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jpまでご連絡願います。

後日、参加方法の詳細をお知らせいたします。

産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス（終了）

日時：2022年7月11日（月）19:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：患者数が増加している梅毒に対して小児科医が対応すべきことー梅毒母体から出生した児への診療を経験してー

演者：産業医科大学 小児科 保科 隆之 先生、

米田 哲 先生、永汐 孟 先生、大内田 史織 先生

産業医科大学小児科セミナー

日時：2022年7月28日（木）18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：ダウン症候群と血液疾患

演者：産業医科大学 小児科 本田 裕子 先生、中島 健太郎 先生、

守田 弘美 先生、樋口 尚子 先生、浅井 完 先生

※8月はお休みです

その他講演会などのご案内

第447回小倉小児科医会臨床懇話会（WEB開催）

日時：2022年7月28日（木）19:00～

演題：「小児科医に伝えたい、成人慢性疾患のポイント～臨床内科医からの提言～」

演者：たまき腎クリニック 院長 玉置 清志 先生

山本内科・糖尿病内科 院長 山本 操 先生

第18回九州先天代謝異常研究会

日時：2022年7月23日（土）14:00～17:00

会場：オリエンタルホテル福岡

（日本先天代謝異常学会の九州地方会）

通則や通知による制限のある検査：項目数規定、主たるもの

新年度の異動、一段落でしょうか。今月の「保険メモ」は、新たな勤務地で小児科診療を担う若い医師と管理的立場の方への応援メッセージです。

つい先日、ある基幹病院の審査で目にしたレセプトを紹介します。

事例：1才女児（川崎病治療後6か月）、グロブリンクラス別ウイルス抗体価測定が4項目施行されています。指導効果でしょう、対応する傷病名に、1. 麻疹疑い、2. 風疹疑い、3. 水痘疑い、4. ムンプス疑いとありました。

疑義。急性感染症で発疹の性状が見分けられない？ GGの影響評価？ 査定や返戻は見送りました。該当のウイルス抗体価（D012-38、各212点）に「2項目を限度」の規定があり、施設からの請求は424点に止まっています。レセプト作成と点検段階で話題にならないのでしょうか。査定がないと安心しないこと、検査業者への支払いで、施設に損失を生じています。

昨年秋（2021年）、免疫学検査にSCCA2（D015-26、300点）が認められました（アレルギー性の炎症に関わるIL-4、13系の検査で、対象は小児アトピー性皮膚炎で15才以下、月1回）。ただし、TARC（184点）とのかかわりで「主たるもの」、つまりいずれか一方のみ算定と明記されています。このところ新規に保険収載される検査に、このような「主たるもの」の通知が目立ちます。例えば、Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体（D007-46、194点）は、慢性肝炎又は肝硬変の患者（疑を含む）に対して肝臓の線維化進展の診断補助を目的に採用されましたが、類似の検査、「P-III-P、IV型コラーゲン、IV型コラーゲン・7S、ヒアルロン酸を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する」と明記されています。これらは慢性肝炎や右心不全の肝障害評価に施行されますが、昨秋の国保全国協議会は縦覧規定に言及し、病態特性から3ヵ月以内の算定を認めない方向を示唆していますので注意してください。

日本小児科学会社保委員会編集「小児診療必携－保険診療・社会保障テキスト、改訂第2版」（2022年5月）では検査算定の基本が「傷病名をつければ、すべての検査を制限なく実施できるわけではない。検査の回数や項目については、通則や通知で多くの制限が設けられている」。さらに「②. 月1、数か月に1回など実施回数に制限。③. 同時に算定できない検査がある。④. 同時に実施できる項目数に制限が設けられた検査など」とあります。そして、「（各分野の）検査においても検査項目による算定基準がある。これは、過剰な検査を行わないようにするためのルールである」とあります（197頁、表2概要）。

一般的な生化学検査（D007-1）では、基礎的な項目よりなる区分1-8で、5-7項目の場合には93点、8-9項目で99点、10項目以上では何項目検査をしても、所定点数にかかわらず106点しか請求できません。この部分には電解質や肝酵素、腎機能など30項目を超える基本的検査（各11-17点）があり、生化学の包括部分を形成しています。10項目をこえると、明らかに施設は手出しです。判断料（144点）は月1回の算定ですから、複数回検査、とくに同項目（コピー）は控えるべきでしょう。

なお、レセプトを確認する際、「生化学検査10項目以上」の算定と表記され内容が隠れがちです。以下のことにも注意してください。（下線部分は生化学包括部分）

- ・ヘモグロビンA1c（49点）はグルコース検査なしでは認めません。
- ・フェリチン（105点）は、血清鉄、同結合能なしの場合は原則査定。
- ・ケトン体（30点）は代謝異常の場合に認めます。一過性の高ケトン血症（尿）などでは、尿試験紙や試験紙・電極法で充分です。

内分泌学検査（D008）で制約がめだちます。BNPは月に1回。「BNP、NT-proBNP、ANPを1週間以内に実施した場合、主たるもの1つに限り算定」とあります。甲状腺ホルモン（TSH、T3、T4）、IRI、レニン以降の比較的新しくかつ高点数のものが含まれる中間区分以降の13-51までの検査を3項目以上行った場合は、検査の項目数に応じて算定、3-5項目（410点）、6-7項目（623点）、8項目以上（900点）です。成長ホルモン・C-ペプチド（108点）、fT3・fT4（124点）、BNP（133点）、副腎ホルモン、性ホルモン、骨代謝関連ソマトメジンCと続きます。より専門的診療分野の自己抗体検査（D014）にも多くの通知が付記され、「2項目320点、3項目以上490点算定」と制約される区分が広いので適切に選択してください。

医療の「2025年問題」は間近、新生児出生数の記録的減少と高度医療の要求、そして経済環境に厳しいものがあります。今月のメモで、各分野の専門医と行政が知恵を出し合って皆保険を維持しようとする取り組み「包括化」の一端を解説しました。細かな記憶は不要です。既に、多くの電子レセが明文化された規則（通則、通知）を情報として取り込んでいるようですから、レセプト作成段階でその請求額を提示しています。いずれ電子カルテのAI化が進み、検査指示の段階で情報提供するでしょう。

患者さんに必要な検査を選び診断に迫り治療の経過を見る時、このような保険制度の制約を感じることがないことが臨床医のあるべき姿ではないかと思いつつ、保険審査をつづけています。

協議事項・報告事項

1) 2022年7月2日に福岡県小児科医会総会が行われました。ご参加ありがとうございました。

2) 第1回発達障害支援連絡会報告(渡辺恭子先生より)メンバー変更について

発達障害早期支援システム研究事業・検診研究会事業概要について、今後のSDQアンケートやMSPAの実施状況の報告があった。

2次検診マニュアルの作成依頼があり、小児科医会と協議して検討する。

北九州市立総合療育センターの現状報告(次項参照)

3) 北九州市立総合療育センターの現状報告

総合療育センター小児科の友納先生に現状をご報告いただきました。

受診数の増加のため、待機期間が伸びています。保護者の不安解消のために、待機期間に各診療施設で定期的に相談に乗っていただけないでしょうか。発達障害地域連携相談会でケースをご相談いただいても構いません。

特別児童扶養手当の発行枚数の増加により通常診療を圧迫している。かかりつけで更新記載をお願いできればたすかります。

小児科は、小学校5年生までの行動障害が強くないケースを担当しているが、受診者数増加と非常勤小児科医の減少により待機が延長しています。状態が悪化している中高生を地域の精神科の先生方に転院で受けていただいているが、安定している子もお願いできないでしょうか。

精神科は、小学校6年生以上および小学校5年生以上の行動障害が強いケースを担当しているが、週3回の非常勤1名で、待機期間が延長しています。地域の精神科の先生方にも、引き続き、小児や中高生を見ていただきたい。

4) 5-11歳のコロナウイルスワクチン接種に関して、3回目の接種において、個別接種のみでおこなうか、集団接種も行うのかに関しての意見の聞き取りがありました。

(市の担当者からの説明あり)

5) 今月の新型コロナウイルス感染症への対応について特にありません

委員会報告

1. 学術委員会報告: 白川嘉継

2022年

8月 休会

9月 ワクチンフォーラム

10月 鳥居薬品株式会社 コレクチム軟膏を検討中

11月 調整中 経口補水関連 轟 知光 先生大塚製薬

12月 調整中 漢方薬関連を検討中

2023年

1月 総会

2月以降未定

その他、COVID-19のため、委員会は行われておりません。